

○議長（小林哲雄）

再開いたします。

午後 1時30分

○議長（小林哲雄）

引き続き、一般質問を行います。

10番、小林秀樹議員、どうぞ。

○10番（小林秀樹）

皆さん、こんにちは。10番、小林秀樹でございます。

今朝の新聞、一斉に富士山が世界遺産登録されたということを報じております。山梨県、静岡県は大喜びというところは当然かもしれませんが、日本中あるいは世界中も喜んでいいニュースかと思えます。その中で、神奈川県がちょっと静か過ぎるかなという感じも私は持ちました。実は、この富士山、今日の私のテーマである酒匂川が深い昔からのかかわりを持っておりまして、そういう意味から、神奈川県はもっと富士山とのつながり、関心を持ってもいいのではないかなと個人的には思いました。

それでは、質問をいたします。酒匂川を地域資源として活用するには。

ゲリラ豪雨は、十文字橋落橋や水辺公園全面冠水など甚大な被害をもたらし、住民生活に多大な影響を与えました。400年以前から酒匂川の治水取り組みが本格化して、足柄平野の安寧に多くの知恵と力が結集されました。町政施行後、町は40年を過ぎます。計画開発の中で変貌を遂げ、人口増加率では県下一にありますが。酒匂川をもっと知り、体感して、母なる川を町の誇りとしてアピールすることが重要であると思ひ、この取り組みを伺いたいところでございます。

二つありまして、一つ、関連施設で酒匂川と触れ合う機会をもっと多く持ちましょう。歴史から酒匂川には多くの施設があります。文命用水、水辺スポーツ公園、九十間土手とかすみ堤、治水工の現物、石碑や酒匂川ふれあい館などがあります。そのほか、松並木や最近できました県が施設した水力発電というものも近くにはございます。生きた生活文化、歴史建造物とその心を現在ある手段や新たなメディアなどで積極的に住民に訴え、全国へ発信して開成町をアピールすべきと考えます。

二つ、落書きを見直して活用をしたいということです。駅前公園や足柄大橋橋脚などに落書きが繰り返されています。一般感覚からすれば、到底、受け入れられるものではありません。後者は3月に中学生中心に修復されましたが、一月もたたない4月に入って新たな書き込みが出現して、またも皆さんの心を踏みにじられた感じがいたします。新たな発想で、このペインティングを芸術表現の場として再考することも必要と考えますが、一連の経過と考えをお伺いしたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

小林秀樹議員のご質問にお答えします。

一つ目の関連施設で酒匂川と触れ合う機会をとということですが、酒匂川の歴史は水害との闘いの歴史と言っても過言ではないと思います。開成町の町内には水害や水防に関連するさまざまな施設、かすみ堤などの貴重な建造物が現存しております。平成22年には、あしがらの歴史再発見クラブの皆様の研究により、流域市町にある中国古代王朝の王の名を冠した碑の存在と酒匂川とのかかわり等が紹介されるイベントである第1回禹王サミットが開催され、酒匂川の歴史が全国に発信されました。また、小学校の社会科の授業では、あしがらの歴史再発見クラブの皆様にご作成していただいた社会科副読本「富士山と酒匂川」を活用して、酒匂川の歴史や先人の知恵を学習しております。

酒匂川は神奈川県で管理している2級河川であり、基本的には河川環境の保全や河川施設の建設、維持管理などは神奈川県の管轄となります。町は高水敷を利用して、開成水辺スポーツ公園としてパークゴルフ等のスポーツ振興にも活用しております。また、平成14年に神奈川県の酒匂川河川環境整備事業により、祖師道堤防や堤防に設置されていた防災倉庫やトイレが整備されました。その中で、酒匂川ふれあい館は酒匂川の情報発信の場として整備され、町が維持管理を行っております。そこでは、酒匂川ネットワーク会議の皆様や消防団幹部のOBの皆様のご協力により、酒匂川の水防に関する知識や酒匂川に生息する動植物の紹介に努めていただいております。そのほかにも、町内の多くの方々に九十間土手の草刈り等の環境整備にご尽力をいただいております。

特に、水害対策に関しては、近年の気象状況の変化などにより、町は決して水害に見舞われることはないと言い切れない状況にあり、将来に向けて過去の水防の歴史を忘れることのないように取り組みをしていきたいと考えております。

2番目の質問、落書きの見直しの活用について。落書き消しの活動は、平成19年3月に、かいせい防犯まちづくり推進協議会委員、防犯指導員、文命中学校生徒などにより実施したのが始まりであります。平成22年3月からは、現在の落書き消しキャンペーンとして実施をしております。開成町環境美化推進協議会委員、開成町環境推進パートナー会議委員、開成町環境保全推進連絡会、文命中学校生徒などの協力により落書きを消した箇所に再度、落書きをされたことは、大変に遺憾なことであります。落書きは地域の美観を損ねるだけでなく、軽微な犯罪を許すサインとなり地域の治安悪化につながるなどから、犯人に対し落書きが立派な犯罪であることを強く認識させる必要があります。

芸術表現の場としての利用、すなわち合法的な落書きのための壁面として利用することで落書き防止のための壁画を作成することのご提案は、作品発表の場を提供すると同時に非合法的な落書きを減らし、町の美観形成、装飾、観光にも利用できるアイデアであり、十分に検討に値する提案だと考えております。今後は、根本的な落書き防止対策を含め、足柄大橋の所有者、管理者である神奈川県西土木事務所と調整を進め、対策を考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

10番、小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

酒匂川について、身近に最近、起こった状況を一つ、ご紹介させていただきます。

あじさい祭の期間が9日間ありました。そのうちの6日間について、あるボランティアグループが開成駅から酒匂川の土手を通って、それから町内に入って、あじさい祭のほうに向かっております。その中で、そのボランティアグループそれぞれがガイドをいたしました。ガイド、全数では74名の方がウォーキングに参加いただいたわけなのですが、全ての方の言葉は盛り込んでいませんが、大多数の方の言葉では「何とすてきな場所なのだろう。」と。これは、風光明媚というのが一口に言えるかと思えます。ただガイドというと、その道を連れ歩いて目的地まで行ってくださるのかなと思ったのだけれども、全く、それは違いましたと。ですから、ガイドによっては30分の予定のところを1時間あるいは1時間半ぐらいかかったところがございます。あじさい祭を見る前に、非常に皆様、満足していただきました。それと、地域の休憩所がありまして、あじさいの里に入る前に、そこに寄っていただくということでは大変ありがたかったと、皆様、異口同音でした。

そういう中で、私は、酒匂川全体が私たちの遺産であり施設であると思っています。松並木の気持ちよい道路、サイクリングにしてもウォーキングにしても、それから水辺公園でのスポーツにしても、大変、皆さんが集まりやすく動きやすい場所だというふうに思っております。

もう一つの視点として、第五次総合計画の中に八つの事業計画があります。その中で酒匂川のことを当てはめてみますと、8分の5、あるいは見方によっては8分の6が適用できるかなと。予算としては32億、適用されていますけれども、そのうちの94%の30億というのが何らかの形で酒匂川との結びつきというのも考えられます。例えば、健康いきいき、それから都市機能と景観、それから産業・文化育成等のことが、そこに詰められていると思います。それに対しては、水辺スポーツ公園にはかなりの投入をされているとは思いますが、そのほかのものについての酒匂川関係には余り大きな投資はされていません。投資されなくても、これだけいろいろなほかの事業をやっていることによって酒匂川がつながっているわけです。もっともっと、これをつなげて酒匂川をアピールすべきかなと。

1週間前、朝日新聞の夕刊、文化欄に二つの記事がありました。並んでいました。一つは、先ほど申し上げた世界遺産のことです。もう一つは、酒匂川の歴史が4,000年前の昔にさかのぼるということです。これは大口にある石碑が物語るわけですが、法政大学の王敏さんという方が非常に熱心に取り組んでおられます。そういう意味からも、酒匂川が非常に住民だけではなくて多くの方にもPRできているかと思えます。

そのことについて、全体の今のことについて、酒匂川をもう一度見直すとか、あ

るいは考え直すとかという、もし、お考えがありましたら伺いたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

難しい質問をされましたけれども、その前に。あじさい祭において、上島の皆さんが観光客の皆さんをおもてなしいただいたり、開成駅東口から土手沿いに歩く方々を酒匂川ネットワークの皆さんが、先ほど言われましたように、いろいろな観光、あじさいの公園まで着く間に開成町の歴史を含めていろいろなガイドをしていただき、本当にありがとうございました。そういった中で、今回、20万人を超えるあじさいイベントが終了しましたけれども、多くの皆さんのご協力だと思っています。

そういった中で、今、酒匂川の活用のお話が出ましたけれども、先ほど申したように、酒匂川は水害との闘いの歴史という話をさせていただきましたけれども、水害だけではなくて、やはり松並木を含めて、酒匂川がいかに景観的にもすばらしいものかということこれから訴えていくときに、先ほど言いましたように、禹王というものを歴史発見クラブの皆さんに発掘をしていただき、第1回は開成町で行いました。去年は片品村で第2回目の禹王サミット、私も行ってきました。禹王に関する、これは何かといえば、中国の初代の皇帝の名前の禹王という文命の方だと思えますけれども、そのことが開成町から全国に発信され、2回目が片品村で行われ、その間に全国に禹王に関するものが、この禹王というのは堤防の神様という意味だと思えますけれども、500カ所、全国に見つかったという中で、今年の7月には四国に行って、また第3回目のサミットが行われると。開成町から、このような形で酒匂川を起点に発展しているというのは、今、現時点で酒匂川歴史発見クラブの皆さんのおかげだと思っています。

これを今後、どうやって開成町からもっともっと広げていくかという中で、小林議員は、つい先日、中国に行ってきた関係の中でお話をされているのかなと思えますけれども、これから、もしかしたら世界まで、この禹王から絡めて開成町から発信していける可能性もあるのかなと今、考えておりますけれども、なかなかそれは現実的な問題として、次の段階に行くには、またいろいろな調査研究が必要だと思えますけれども、酒匂川は開成町にとって、水害という問題もありますけれども、反対に農業用水路の恵みの水でもありますので、そういう意味も含めて開成町から酒匂川を全国に発信していけるよう努力はしていきたいと考えております。

○議長（小林哲雄）

10番、小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

ここに一つのデータがございます。これは、今、町長からも答弁がありましたふれあい館の関係なのですが、ふれあい館は今、土曜日と日曜日を開館しております。そのほか夏休みプラス5月の連休プラス春休みプラスとかというのがございますが、

このデータについては通常の土曜日、日曜日ということでとってございます。それによりますと、土曜日が871名、年間です、日曜日が941名、多少の差がありますが、両方で1,810数名になります。これは、土曜日の開館を3年前から始めて、この数字になってきたわけなのですが、開館がなければ、この数字がないわけです。この数字の中身は、大人が3分の2、子どもさんが3分の1です。やはり、何か、あそこをウォーキング、サイクリング、あるいは活用していて、あると非常にほっとするという言葉を聞きます。それから、何かと気になっているのだけでも、なかなか入れる機会がなかったと聞いておまして、そういう意味では、土曜日と日曜日の開館というのは、時間は限定がありますが、非常にいいことかなというふうに思っています。

さらに、これを伸ばすには、どうしたらいいか。私は、あそこを平日も開館できればいいかなと思っています。では、平日は誰が開館するのよと。これは、いろいろやり方もあると思います。例えば、庁舎の分室として、平日はあそこを利用してはどうかなと。必ずしも、あそこに複数を詰める必要はない。1人でも十分だと思います。それで、会館の仕事だけではなくて、通常の仕事もしながら、お客さんが来れば開館をして、お客さんを案内する。そうすることによって、例えば、担当課の方でなくても、順番にしても、別の場所で通常の仕事をこなしながら来館者にご案内できるということも一つの考え方かなと。そうすることによって、この1,800の数字が、さらに上乘せするのではないかと。つまり、多くの人が活用して、酒匂川のすばらしさ、それを共有できる、酒匂川を、もっともっと皆さんのものとしてできるのではないかと。その行く先々は、富士山と酒匂川というのを続けて、今回、歴史遺産ではなくて文化遺産なのですけれども、歴史とか自然遺産につながることも可能ではないかなというふうに思います。

これは単なる私の思案でありますけれども、やはり、そういうことによって、もっと酒匂川を町内の地域だけではなくて、川に向けた行政というものを積極的に進めることも必要ではないかと思えます。このことについて、もし答弁いただけたら、お願いしたいと思えます。

○議長（小林哲雄）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

酒匂川ふれあい館を、例えば庁舎の分室として使うということについてのご提案というふうに伺っておりますけれども、基本的に、ふれあい館の所有権は神奈川県にございまして、町は管理を受託している立場というところがございますので、まず、そのところは、そういった活用が可能なのかどうかというところの可否も含めて検討する必要があるだろうというふうに考えております。ただ、平日も開館をしたらどうかと、そういった部分については、別の側面から可能かどうかということも含めて検討はさせていただきたいと思えます。

いずれにいたしましても、いわゆる酒匂川の歴史ですとかさまざまな史跡等をさ

まざまな機会を捉えてPRするということについては、これは当然のことだと思っておりますので、そういったスタンスで検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（小林哲雄）

10番、小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

ふれあい館の利活用については、そのような考えもあるか思いまして、ぜひ検討を前向きに進めていただきたいなど。それによって、多くのプラスが生まれるのではないかというふうに思います。

二つ目の落書きについての見直し活用でございます。

まず、この落書きというのを、今まで落書きというふうに捉えていましたけれども、ここに落書きする人、今、書いてある方は、自分たちは落書きではない、自分たちの表現の場だというふうに考えられていると思います。そういう意味では、カラー化になったり、以前よりはちょっと見やすいかなというような感じもいたしますが、でも、やはり意図したペインティングではありませんので、これは町の、あるいはペインティングする方の意図するところを表現すべきかなと。

質問は、文命中学の東側にやはり中学生がペインティングした壁があります。数年をたっておりますが、これと、それから駅前の壁、これは落書きですね、それから足柄大橋の落書きについての今までの経緯、簡単に結構ですので、ご説明いただけたらというふうに思います。

○議長（小林哲雄）

環境防災課長。

○環境防災課長（田中栄之）

それでは、質問にお答えをいたします。

先ほど経緯につきましては町長のほうから大まかなご説明があったかと思っておりますけれども、公共施設への落書きが目立ち始めましたのは、先ほどお話をしました平成19年ごろからということで、当時は開成駅前公園、今は第一公園と申しますけれども、こちらのトイレの壁に落書きをされるというようなこともございました。それを受けまして、先ほど申し上げたように、現在では落書き消しキャンペーンということで、書かれたものを消していくという作業が続いているわけでございます。

基本的な考え方としましては、落書きというのはやはり立派な犯罪でありますので、本来は所有者、管理者によりまして適正に法的手段をとっていただくというのが一番望まれるわけですが、町としては所有者、管理者ではございませんので、いわゆる景観を損ねる、それから犯罪への軽微なサインを見逃さないということで、常に一貫して対応しているところでございます。

今後は、今、行っております落書きキャンペーン、年1回でしたけれども年2回ということで現在計画をしております、平成25年は2回やりたいというふうに考えてございますので、できましたら、本来、2回やらないで済むというのが一番

いいのですけれども、残念ながらなかなかなくなっていかないという中では、とりあえず、そのような形で少し強化をしていくというような考え方だということでお答えをさせていただきます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

10番、小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

小林秀樹です。

従来型の考えでは、これは突破できないのではないですか。先ほどのふれあい館もそうなのですけれども、いわゆる町の管理ではないから、県の所有物で県の管理なのだから、基本的なものが、それだったら手足が出ないと思うのです。規制というか、そういう制限がある中で、19年以降、県へどういうふうな要望を出して、それを突破しようという動きはありましたでしょうか。伺いたいと思います。

○議長（小林哲雄）

環境防災課長。

○環境防災課長（田中栄之）

それでは、質問にお答えをさせていただきます。

平成19年当時、当時の環境防災課のほうで、当時、県西土木事務所、足柄上土木事務所ですか、こちらのほうと打ち合わせをする中で、実は、落書きを消した後に、例えば、子どもさんたちに絵を描いていただくようなことは可能でしょうかというご質問を投げかけた経緯がございます。これにつきましては、もし本当にそのようなことをご計画であれば、正規の方法にのっとって申し入れをしてくださいということでご回答をいただいております。

なお、今回のご質問をいただきましたので、再度、県西土木事務所を確認をしましたところ、そういうご意向があれば県としては十分受け入れる余地はございますということでご回答をいただいております。ちなみに、西湘バイパスの橋脚には、地元の中学生でしたかね、絵を描いたという実績もあるようですので、決して不可能なことではないということで、最初のご回答にありましてとおり、検討は進めていきたいというところでご回答をさせていただきます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

10番、小林秀樹議員。

○10番（小林秀樹）

そういう進め方で、多分、この改善は進められるだろうというふうに私も思います。これが、今度は、今までの例えば中学生中心のボランティアグループということも含めて、今、酒匂川、あるいは1市5町で、大変、県がかかわっている足柄アートフェスティバルという動きがあります。今年3年目で、ここは数千万の金が毎年投入されているのです。ですから、そういうところとも連携する、開成町は後援

団体になっているわけですから、ぜひ、そういうことで進めていただきたいなど、
こういうふうに思います。それで、町が進める日本一元気、それからきれい、日本
一健康な開成町ということが、この一つの動きからでも進められるのではないかな
というふうに考えますので、今後の行政の取り組み、よろしく願いいたします。

以上で私の質問を終わります。